

【来 歴】

「さくひめ」は2018年3月に品種登録された新品種の早生ももです。国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構により育成されました。

従来品種に比べ早いことが挙げられます(表1)。

2018年から2020年までの3年間平均をみると、収穫始期は「日川白鳳」と同等ですが、収穫期間が長く収穫終期は「日川白鳳」より6日遅い状況でした。これは、「さくひめ」では核割れが少なく成熟が「日川白鳳」より緩やかであることが要因です。

所内調査樹における果実品質を表2に記します。果実重は約300gで「日川白鳳」と比べると2階級ほど大きく(写真1)、糖度はほぼ同等で、年によっては酸味が感じられる果実もあります。双胚果は多いものの、前述のとおり核割れ果の発生は少ないです。

「日川白鳳」に比べて花芽、葉芽ともやや少なく、単芽の割合が高いです。また、短果枝よりも中長果枝の割合が高く感じられます。

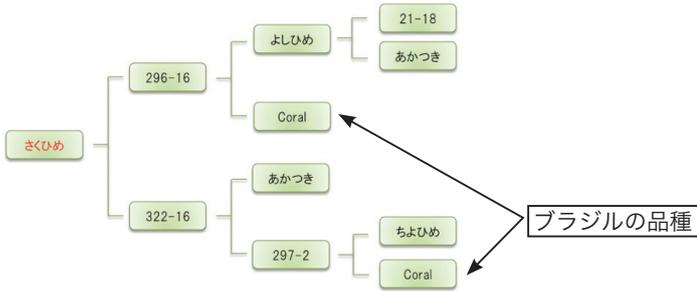


図1 「さくひめ」の系統図

【特 徴】

「さくひめ」にはブラジルの品種が育種親に入っており(図1)、従来の早生品種にない特徴を持っています。大きな特徴としては、低温要求性が低く、発芽や開花が

表1 「さくひめ」の生育概況

品種	年次	発芽期	開花			収穫		
			始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
さくひめ	2018年	—※	3/19	3/22	4/1	6/18	6/21	6/25
	2019年	2/14	3/20	3/22	3/30	6/20	6/23	7/1
	2020年	2/10	3/13	3/17	3/26	6/16	6/22	6/30
	3年平均	2/12	3/17	3/20	3/29	6/18	6/22	6/28
日川白鳳	2018年	—	3/27	3/30	4/6	6/13	6/15	6/18
	2019年	3/5	3/29	3/31	4/11	6/19	6/21	6/24
	2020年	3/3	3/28	3/31	4/7	6/19	6/22	6/26
	3年平均	3/4	3/28	3/30	4/8	6/17	6/19	6/22

※ —は調査していないことを示す

表2 「さくひめ」の果実品質

品種	年次	果実重 (g)	果肉硬度 (kg)	糖度 (Brix%)	酸度 (pH)	双胚果率	核割れ果率
さくひめ	2018年	310	2.2	10.8	4.2	—※	15%
	2019年	299	2.4	13.5	4.5	22%	8%
	2020年	293	2.1	12.4	4.4	50%	19%
	3年平均	301	2.2	12.2	4.3	—	14%
日川白鳳	2018年	190	2.4	11.7	4.3	—	100%
	2019年	233	2.5	12.2	4.5	—	100%
	2020年	249	2.3	12.0	4.4	—	95%
	3年平均	224	2.4	12.0	4.4	—	98%

※ —は調査していないことを示す



写真1 4kg箱に箱詰めした「さくひめ」(左)と「日川白鳳」(右)

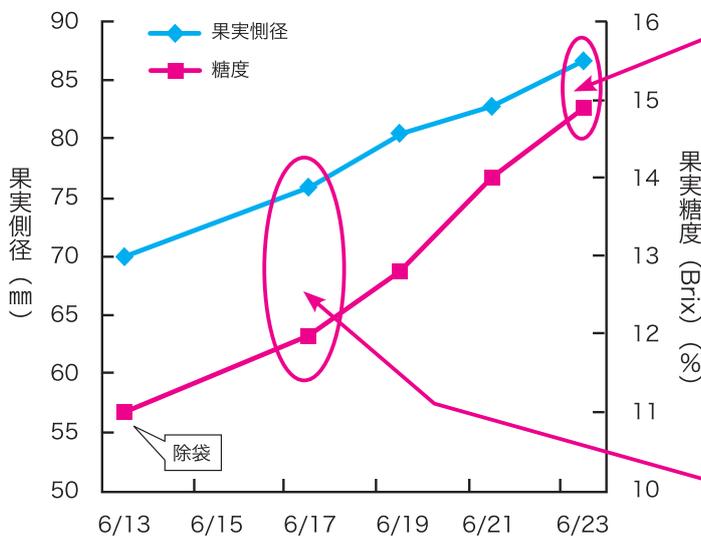
【栽培上の留意点】

発芽、開花が早いため、発芽前や開花期の防除が遅れないよう注意する必要があります。また、従来品種に比べ凍霜害を受けやすい懸念があります。冷気の溜まりやすい地形等への植栽は避け、特に若木のうちは冬期に主幹へのわら巻きを行って凍霜害を回避します。せん孔細菌病に罹病性であるため、風当たりの強い園地への植栽を避け、発生の多い園では防風ネット等の対策を行います。

花芽が少なく、開花期に低温に遭うと着果不安定の恐れがあるため、摘蕾、摘花はごく軽めに行います。自家結実するため、人工授粉は不要です。双胚果でも核割れの発生につながらないので、双胚にこだわらずに摘果を行います。

果皮の着色は良好ですが、それゆえに未熟果の収穫につながる懸念があります。「さくひめ」は「日川白鳳」と比べて樹上での果実の保ちがよく、「日川白鳳」と同等の外観では果実品質が伴いません。果実に張りが出て、果肉に弾力を帯びる頃が収穫適期です(図2)。

せん定について、葉芽が少ないため葉芽をよく確認します。先端芽をナシヒメシンクイに食害されている場合は、葉芽のあるところまで切り返し、葉芽がなければ間引きます。側枝が間延びしやすいため、側枝更新を意識し、勢いのある枝まで切り戻します。



張りが出て果肉が弾力を帯びる頃が収穫適期(晩生品種のような収穫判断で)



「日川白鳳」なら収穫可能な外観だが、まだ我慢!(張りが少なく硬い)

図2 樹上での果実側径と糖度の推移と収穫判断